

QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 18 No.2, 2011



西安の北西約 170km に位置する Lingtai での古地磁気試料の採取風景。red clay の上位に loess-paleosol の互層が約 166m 堆積し、約 260 万年間の詳細な地球磁場が記録されている。写真の明色層が氷期に堆積した loess、暗色層が間氷期に形成された paleosol である。(解説:谷川晃一郎、撮影:三島稔明氏)

Vol. 18 No. 2

April 1, 2011

2011 年大会案内	2	幹事会議事録	9
連合大会プログラム	5	会員消息	10
INQUA 重要日程	8	追悼	10
シンポジウム報告	8	学会メーリングリスト	11
講演会・シンポジウム報告	9	三宅賞・奨励賞募集	11
評議員会議事録	9		

◆日本第四紀学会 2011 年大会案内（第 2 報）・発表申し込み

<大会の概要>

1. 日時・開催場所：2011 年 8 月 26 日（金）～8 月 28 日（日）
鳴門教育大学（徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748）
2. 日程
8 月 26 日 一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会
8 月 27 日 一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・懇親会
8 月 28 日 午前：学会賞・学術賞受賞者講演会、午後：シンポジウム
8 月 29 日 アウトリーチ巡検
3. 発表の申し込み締め切り：2011 年 6 月 9 日（木）
4. シンポジウム
公開シンポジウム「環太平洋の環境文明史」
世話人：米延仁志、山田和芳
公開講演会を開催します。講演の詳細については次号で案内します。
5. 巡検の概要
8 月 29 日 アウトリーチ巡検「百万年前の東四国を探る」（案内者：中尾賢一、西山賢一）（日帰り）
詳細と申し込みは次号で案内します。
6. 大会実行委員会
実行委員会委員長 米延仁志
連絡先：実行委員会事務局
〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748
鳴門教育大学科研プロジェクト室
Tel/Fax 088-687-6411

<発表の申し込み>

- 徳島大会の発表申し込みに関する昨年からの大きな変更点
 1. 講演要旨原稿は発表申込書と合わせて、いずれも電子メールの添付ファイルでの送付が可能になりました。
 2. 筆頭発表者（会員であることを条件）の発表件数は、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ 1 人 1 件の発表（1 人合計 2 件までの発表）が可能になり、1 人あたりの発表件数の制限が緩和されました。

1. 一般研究発表の申し込み

・発表者の資格と発表件数の制限

一般研究発表には、口頭発表とポスター発表があります。筆頭発表者（資格は会員であること）としては、口頭発表およびポスター発表について、それぞれ 1 人 1 件の発表が可能です。

・発表の形式と発表時間

発表セッションは、口頭発表（オーラルセッション）およびポスターセッションがありますので、発表申込用紙にあるセッションから希望する方を選択してください。発表件数によっては、必ずしも希望のセッションにならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

口頭発表（オーラルセッション）の時間は 1 件 15 分程度（質疑応答時間を含める）を予定しています（発表件数によって変更の可能性があります）。十分な説明や討論を希望する方にはポスターセッションへの申し込みをお勧めします。またポスター発表者には、ポスターの前で説明するコアタイムを設ける予定です。

・発表申込書と講演要旨の送付方法および締め切り

一般研究発表希望者は、日本第四紀学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/qr/>）より、「第四紀学会一般発表申込書」（MS-Excel ファイル形式）をダウンロードし、必要事項を記入の上、後述する講演要旨の pdf ファイルと共に、6 月 10 日（金）までに専用アドレス（[jaqua2011\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2011(at)gmail.com)）あて、発表タイトルごとにひとつの電子メール（メールの題名は必ず「一般発表申込：筆頭発表者名（2 件申し込む場合は A、B を末尾につけて両者を区別してください）」としてください）の添付ファイルとしてお送り下さい（締め切り厳守）。発表申込書の添付ファイル名は「発表申込書：筆頭発表者名（2 件申し込む場合は A、B を末尾につけて両者を区別してください）」としてください。講演要旨は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった形式の pdf ファイルを、同じ専用アドレス（[jaqua2011\(at\)gmail.com](mailto:jaqua2011(at)gmail.com)）あて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。ファイル名は「講演要旨：筆頭発表者名（2 件申し込む場合は A、B を末尾につけて両者を区別してください）」としてください。講演要旨原稿は 2 ページ分執筆してくだ

さい。

電子メールが使用できない場合は、4ページにある「発表申込用紙」（コピーでもよい）に所定の事項を記入の上、写真製版可能な講演要旨1部と共に郵送で下記行事担当幹事あてにお送り下さい。なお、メールの添付ファイルでお送りいただいた講演要旨原稿のpdfファイルは、行事幹事がインクジェットプリンタによって印刷する予定ですが、印刷時の画像の歪み・乱れや解像度については責任を持ってませんので、不安な場合は郵送による原稿の送付をお勧めします。

要旨集原稿・発表申込用紙の送付先：

〒190-8518 東京都立川市緑町10-3

国立極地研究所地圏研究グループ 日本第四紀学会行事担当幹事 三浦英樹 あて

・知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、本発表申し込み末尾の「4. 講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入（入力）することで成立するとします。

2. シンポジウム依頼講演者の講演要旨の送付方法および締め切り

シンポジウムはすべて依頼講演形式とします。シンポジウム依頼講演者の方は、「3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった形式のpdfファイルを、専用アドレス(jaqua2011(at)gmail.com)あて、電子メールの添付ファイルでお送り下さい。メールの題名およびファイル名は「シンポジウム講演要旨：筆頭発表者名」として下さい。電子メールが使用できない場合は、写真製版可能な原稿を6月10日（金）までに上記の行事担当幹事までお送り下さい（締め切り厳守）。原稿枚数は2ページまたは4ページでお願いします。

3. 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意したA4版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各2.5cm、上端3.0cm、下端3.5cmは空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1行目の左側を1.5cmあけて(左端から4.0cm)左詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて左詰めで続けてください。和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2行以上にわたる場合でも1.5cmあけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。

本文は英文表題の次の1行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36行・35字程度を目安としてください。不明な場合は昨年の要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。ワープロ使用の場合は濃く印字してください。

手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合には黒インクを使用し原稿用紙に直接描くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時にA4の原稿がB5版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の1」という表現はしないで必ずスケールを入れてください。

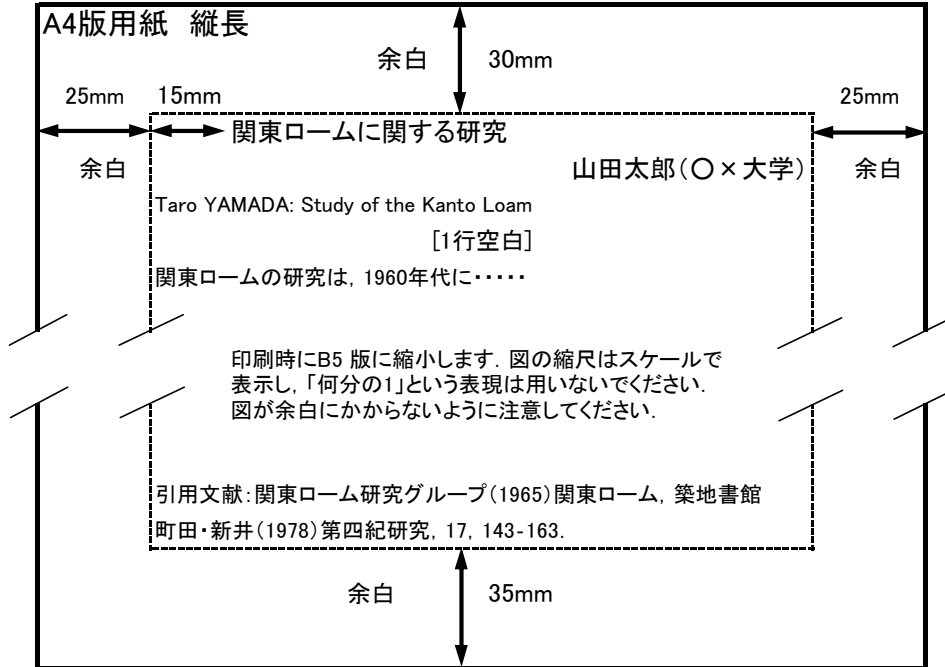
講演要旨原稿をメールの添付ファイルにする場合は、必ずpdfファイルに変換してお送りください。

4. 講演要旨執筆上の注意

2011年3月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか(2005)第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

講演要旨の書き方の例



発表申込書

(電子メールで下記の内容を送信すれば本申込書は郵送不要)

氏名・所属				
講演題目				
代表者の連絡先	〒 e-mail: TEL: () FAX: ()			
希望の発表形式 (○をつける)	() 一般研究発表			() シンポジウム
	() 口頭発表	() ポスター	() どちらでもよい	/
液晶プロジェクター OHPの使用 (○をつける)	() 液晶 プロジェクター	() 液晶 プロジェクター +OHP	() OHP	() その他 ※方法を記入下さい。
「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守するならば、以下に氏名を入力して下さい。 私()は、「講演要旨執筆上の注意」を理解し、その内容を遵守します。				

◆日本地球惑星科学連合 2011 年連合大会プログラム

日本地球惑星科学連合 2011 年連合大会が下記のとおり開催されます。2011 年連合大会には 3700 件を超える発表が申し込まれ、6 日間の会期で開催されます。日本地球惑星科学連合が法人化して 3 年目を迎え、地球惑星科学を学際的に盛り上げていく場として合同大会の意義は年々重要度を増しています。みなさまの積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2011 年 5 月 22 日（日）～ 27 日（金）
 - ・場所：幕張メッセ国際会議場
 - ・大会詳細：<http://www.jpogu.org/meeting/index.htm>
- 各セッションの日程と会場は上記大会ウェブサイトを確認できます。
事前参加登録（割引料金）締切：2011 年 5 月 9 日（月）17:00

●第四紀関連オーラル<ポスターセッション>（一部抜粋）

日	オーラル時間	セッション名	会議室	<ポスター発表日コア時間*>
5月22日	8:30～16:15	H-DS25:ヒマラヤにおける氷河湖拡大と決壊洪水	103	
5月23日	8:30～17:00	O-22, 23:ジオパーク	303	<5月23日PM2>
5月24日	8:30～12:45	H-SC24:人間環境と災害リスク	201A	<5月24日PM1>
5月24日	8:30～16:15	H-RE31:地球温暖化防止と地学	303	<5月24日PM2>
5月24日	10:45～12:45	H-CG36:堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報	202	<5月24日PM1>
5月24日	10:45～12:45	H-DS29:活断層と地震災害軽減	302	<5月25日PM2>
5月24日	14:15～18:00	S-SS32:活断層と古地震	302	<5月25日PM2>
5月24日	14:15～16:15	H-QR22:平野地質－第四紀層序と地質構造－	201A	<5月24日AM2>
5月24日	16:30～18:30	H-QR23:ヒト－環境系の時系列ダイナミクス(1)	303	<5月24日PM1>
5月25日	8:30～12:45	H-QR23:ヒト－環境系の時系列ダイナミクス(2)	303	<5月24日PM1>
5月25日	8:30～12:45	B-PT02:Climate change in the low latitude and proxy development	201B	<5月25日PM1>
5月25日	8:30～12:45	H-DS27:湿潤変動帯の地質災害	301A	<5月24日PM2>
5月25日	14:15～18:30	A-PE31:古気候・古海洋変動(1)	104	<5月25日AM2>
5月25日	14:15～16:15	H-GM21:地形	301A	<5月24日PM2>
5月25日	16:30～18:30	H-GM02:Geomorphology	301A	<5月24日PM2>
5月26日	8:30～12:45	A-PE31:古気候・古海洋変動(2)	104	<5月25日AM2>
5月26日	8:30～12:45	H-GG01:Global Land Project	201A	<5月26日PM1>
5月26日	8:30～12:45	B-PT25:人類進化と気候変動	102	<5月26日PM1>
5月26日	14:15～18:30	A-CC29:氷床・氷河コアと古環境変動	102	<5月26日AM2>
5月27日	8:30～12:45	A-CG34:海と陸の気候－過去から現代までの変動解明へのアプローチ	102	<5月27日PM1>
5月27日	10:45～18:30	H-DS04:Multi-disciplinary Studies on Natural Hazard in Asia	103	<5月27日AM1>

*ポスター発表日コア時間について

AM2 = 10:45～12:45、PM1 = 14:15～16:15、PM2 = 16:30～18:30 のうちの指定された時間帯および前後の休憩時間に、のべ1時間程度ポスター説明が行われます。ポスターは当日終日掲示されます。

●日本第四紀学会主催セッション

3月8日現在での暫定的なプログラムです。紙面節約のため筆頭発表者のみ記されています。確定したプログラムは追って大会ウェブサイトを確認できます。

セッション H-QR23 『ヒト－環境系の時系列ダイナミクス』オーラルセッション

5月24日(火) 16:30～18:30 幕張メッセ国際会議場 303

- 16:30～前空英明他：インド北部ガッガル川の完新世中・後期河川環境－盛期ハラッパー文化期に氷河を水源とする大河であった可能性
- 16:45～八木浩司他：氷性堆積物で閉塞された構造的凹地としてのララ湖－ネパール・ヒマラヤ最大の湖の成因
- 17:00～三宅 尚他：ネパール西部、ララ湖周辺における完新世中期以降の植生変遷と火事
- 17:15～西内李佳他：宇都宮市中里における最終氷期最盛期の植物化石群

- 17:30 ~ 石村大輔：段丘地形に基づく琵琶湖周辺の氷期—間氷期の堆積環境変遷
17:45 ~ 石原武志他：荒川・妻沼低地の埋没段丘面の分布・編年と周辺諸河川との対比
18:00 ~ 佐藤善輝他：浜名湖沿岸の六間川低地・新所低地における完新世中期以降の堆積環境変遷
18:15 ~ 丹羽雄一他：濃尾平野完新統の電気伝導度の堆積環境解析への適用

5月25日(水) 8:30 ~ 12:45 幕張メッセ国際会議場 303

- 8:30 ~ 南雲直子他：カンボジア中央部セン川下流域に見られる氾濫原の発達過程
8:45 ~ 小荒井衛他：活褶曲地帯の地形発達と斜面崩壊の関連
9:00 ~ 仲村祐哉他：新潟県上越沖の海底コアに挟在する後期更新世テフラの層序と対比
9:15 ~ 宮入陽介他：古海藻試料を用いた日本北部周辺海域の¹⁴C ローカル海洋リザーバー効果の検討
9:30 ~ 中村俊夫：佐賀県東名貝塚遺跡柱状サンプルの¹⁴C年代測定と堆積年代解析
9:45 ~ 小野 昭：信濃川流域における上部旧石器時代の黒曜石の利用
10:00 ~ 遠藤邦彦他：中央ユーラシアにおける湖沼堆積物に基づく完新世の環境変動—バルハシ湖を中心—
10:15 ~ 清水 整他：カザフスタンイリ川中流域における完新世後期の河川地形発達史
10:45 ~ 須貝俊彦他：湖底コアの元素組成変動と流入河川の地形発達からみたバルハシ湖東部における完新世の堆積環境変化
11:00 ~ 竹内 望他：天山山脈山岳氷河アイスコアから復元した中央アジアの環境変動
11:15 ~ 佐野雅規他：樹木年輪セルロースの水素・酸素同位体比によるキルギスの古気候復元
11:30 ~ 坂井亜規子他：イリ河流域における過去 1000 年間の氷河・氷河流出量変動
11:45 ~ 奈良間千之他：歴史地図を用いた中央アジアの過去 1000 年間の湖面変動 (Aral, Issyk-Kul, Balkhash)
12:00 ~ 大西健夫他：イリ川流域における水文モデルの構築
12:15 ~ 窪田順平：中央ユーラシアの気候変動と人間と環境の相互作用

セッション H-QR23 『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』ポスターセッション

5月24日(火) 幕張メッセコンベンションホール (コアタイム 14:15 ~ 15:15)

- 1 岡村 眞他：西ネパール・ララ湖底コアの完新世堆積物
- 2 鹿島 薫他：エジプト、カルーン湖およびハムラ湖における完新世湖水位変動の復元
- 3 渡邊三津子：中央ユーラシア乾燥・半乾燥地域の自然環境と人間活動
- 4 門谷弘基他：湖底堆積物の鉱物分析で解明された中期完新世バルハシ湖の湖水位低下
- 5 佐藤明夫他：カザフスタン、バルハシ湖およびイリ川デルタ周辺における砂丘地形の分布と発達—環境変遷解明のための基礎研究—
- 6 近藤玲介他：カザフスタン、バルハシ湖周辺における各種堆積物の OSL 年代測定
- 7 鈴木孝志他：OSL 年代測定法を用いた埼玉県飯能地域における河成段丘と丘陵の発達史推定の試み
- 8 江連靖英他：宇宙線生成核種 Be-10 と Al-26 から推定された濃ヶ池カールおよび駒飼ノ池カールの露出年代とその意義
- 9 高田将志他：琵琶湖 1400m コアから得られた石英粒子の熱ルミネッセンス感度変化特性
- 10 中澤文男他：ベルーハ氷河に含まれるマツ属花粉 1 粒ずつの DNA 分析
- 11 百原 新他：長野県北部神城の最終氷期の古植生復元
- 12 野口真利江他：関東平野における珪藻分析による縄文海進期の環境と古生態—三郷市における事例を中心—
- 13 千葉 崇他：千葉県関宿地域における完新世の相対的海水準変動
- 14 大上隆史他：濃尾平野沖積層における帯磁率の分布特性
- 15 坂本優紀：鶺ヶ谷鍾乳洞の地形発達史に基づく手取川流域の環境変動史
- 16 佐々木俊法他：2004 年留萌支庁南部地震震源域周辺における海成段丘の分布と変動地形

セッション S-SS32 『活断層と古地震』オーラルセッション

5月24日(火) 14:15 ~ 18:00 幕張メッセ国際会議場 302

- 14:15 ~ 沓名亮輔他：根尾谷断層破碎帯の最新すべり面におけるマンガンの濃集
14:30 ~ 桑原保人他：地表地震断層の摩擦特性測定実験
14:45 ~ 安藤広一他：CIP 法によるコンピュータシミュレーションを用いた伊勢原断層の断層傾斜角の推定
15:00 ~ 大津 直他：サロベツ断層帯の完新世後期の活動履歴の再検討
15:15 ~ 向山 栄他：2 時期の高解像度 DEM を用いた数値地形画像解析により抽出した、平成 20 年 (2008 年) 岩手・宮城内陸地震による地表変動
15:30 ~ 石山達也他：国府津—松田断層の完新世後期の低断層崖地形と古地震活動
15:45 ~ 丹羽雄一他：濃尾平野完新統に記録された地震沈降の検出と養老断層系の完新世活動

- 16:00 ~ 宮田隆夫他：神戸市都賀川河口域における和田岬断層の地中レーダ・地層分布不連続解析
 16:30 ~ 竹内 章他：呉羽山断層帯海域部における音波探査
 16:45 ~ 阿部信太郎他：福井平野東縁断層帯海域延長部における断層分布と活動性について
 17:00 ~ 田中雅章他：瀬戸内海西部における新たな活断層の認定について
 17:15 ~ 松多信尚：台東縦谷断層中部玉里付近の逆断層クリープ運動の空中写真測量による 30 年間の地表変形と水準測量および変動地形との関係
 17:30 ~ 林 愛明他：チベット高原玉樹横ずれ断層で過去 1000 年間頻発した大地震
 17:45 ~ チョペル ジャミアン：ブータン南部の活断層の特徴とアクティブテクトニクスへの適用
 (セッション移動手続中)

セッション S-SS32 『活断層と古地震』ポスターセッション

5月25日(水) 幕張メッセ国際会議場コンベンションホール (コアタイム 16:30 ~ 17:30)

- 1 宮下由香里他：断層破碎物質を用いた断層活動性評価手法の開発 (1)：鳥取県西部地域における断層岩の産状
- 2 間中光雄他：断層破碎物質を用いた断層活動性評価手法の開発 (2) - 2000 年鳥取県西部地震の余震域およびその周辺の断層ガウジの比較 -
- 3 小林健太他：断層破碎物質を用いた断層活動性評価手法の開発 (3)：鳥取県西部地域における断層ガウジの色測定
- 4 小形祐美他：白神山地西縁、西津軽海岸の波状隆起をもたらず震源断層の推定
- 5 宮内崇裕：旧汀線情報を用いた海域震源断層モデリングー日本海東縁変動帯の地震発生ポテンシャル評価に向けてー
- 6 阿部恒平他：北上低地西縁断層帯・天狗森一出店断層群における反射法地震探査
- 7 小坂英輝他：北上低地西縁断層帯における断層露頭と変位地形
- 8 田力正好他：詳細な空中写真判読に基づく花輪東断層帯の地表トレス分布
- 9 水本匡起他：会津盆地東縁断層帯南部における新たな断層変位地形の認定
- 10 粟田泰夫他：2m DEM による逆断層型変動地形の定量的評価：長町一利府活動セグメントの位置・形状と変位量分布パターン
- 11 後藤秀昭他：詳細 DEM のステレオ画像から判読される微小な変位地形
- 12 上田圭一他：2008 年岩手・宮城内陸地震震源域の地質構造ー地表地質調査による検討ー
- 13 石井 寿他：宝暦十二 (1762) 年佐渡地震の再調査
- 14 吾妻 崇他：邑知瀨断層帯石動山断層の最新活動時期に関する検討
- 15 吉岡敏和他：柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯、鍛冶屋、関ヶ原および宮代断層の活動履歴
- 16 佐藤活志他：断層変位センスによる応力インバージョン法と活断層データへの適用
- 17 堤 浩之他：活断層露頭データの応力インバージョン解析から求められた近畿・中部地方の広域応力場
- 18 戸田 茂他：近畿トライアングル北部の横ずれ断層に伴う袋状埋積谷における反射法地震探査
- 19 佐々木俊法他：1943 年鳥取地震震源域東部の変動地形と活断層露頭
- 20 広兼修治他：宍道断層東端付近における断層の活動性評価
- 21 伊藤友司他：宍道断層西端付近における断層の活動性評価
- 22 伊藤弘志他：福岡県西山断層帯の海域延長部
- 23 杉山達哉他：筑前大島における西山断層の通過位置とその連続性について
- 24 中村洋介他：福岡沿岸域において新たに確認された活断層露頭
- 25 及川兼司他：福島県沿岸周辺における津波堆積物調査
- 26 千葉 崇他：三浦半島江奈湾における関東地震による古水深の変化と津波堆積物
- 27 金 幸隆：関東地震のタイプ分けと再来間隔に関する研究の整理
- 28 Wiwegwin Weerachat 他：Re-evaluation of the Thoen fault activity in the Lampang basin, northern Thailand

◆ INQUA (国際第四紀学連合) 第 18 回大会の重要日程

日時・開催地：2011 年 7 月 20 日～7 月 27 日、スイス・ベルン
 主催：International Union for Quaternary Research

< Important Deadlines >

Registration:

28 February 2011 pre-registration for pre- and post-congress excursions
 31 March 2011 reduced fee for early registration
 31 May 2011 regular registration fee

Abstract Submission:

30 November 2010 Last day for submission of abstracts (talks)
 10 May 2011 Last day for submission of abstracts (posters)
 31 May 2011 Registration and payment by presenting authors of talks and posters

詳細は <http://www.inqua2011.ch/>

昨年 11 月末時点で 2968 件の発表申し込みがあり、1080 件の口頭発表が 88 のセッションで行われます。ポスター発表は 1888 件が申し込まれています。日本からの発表申し込みは前回ケアンズ大会に較べて少ないようです。

◆ 下部・中部更新統境界国際模式地に関する国際シンポジウムの報告

内山美恵子 (都留文科大学文学部初等教育学科)

みなさんご存じのように、新生界新第三系・第四系の境界は 2009 年に決着がつかいましたが、下部・中部更新統境界および中部・上部更新統境界に関しては国際模式地を選定中で、未だ GSSP (Global Stratotype Section and Point) が打たれていません。下部・中部更新統境界については模式地候補が 3 地点あり、現在選定作業が行われているところですが、そのうちのひとつとしてアジア地域で日本が千葉県養老川地域を提案しています。GSSP の選定は国際層序ガイドに規定されている 7 つの基準に基づいて行われますが、養老川地域はこれらの基準をおおむね満たしており、下部・中部更新統境界の模式地にふさわしい場所としてこれまでに数多くの研究がなされてきました。このことをアピールするため、2011 年が開けて間もない 1 月 15 日、INQUA 層序・編年委員会委員長の B.Pillans 教授と IUGS 層序委員会委員の M.J.Head 教授を招待して、「下部・中部更新統境界国際模式地に関する国際シンポジウム」(主催：アジア太平洋第四紀層序委員会・古関東深海盆ジオパーク認証推進協議会、後援：Japan Branch IUGS-GEM・The Japan Chapter on Medical Geology IMGA・日本第四紀学会・他 11 団体) が千葉県市川市で行われました。シンポジウムでは INQUA 層序・編年委員会委員の熊井久雄名誉教授、Head 教授、Pillans 教授による基調講演のほか、

国本層を主体とした地質層序・古地磁気層序・有孔虫化石と珪藻化石の生層序・火山灰層序とその年代や噴出起源についての 7 本の発表が行われました。発表は Head 教授と Pillans 教授以外、通訳なしの日本語で行われましたが、両教授は盛んにメモを取りながら熱心に発表スライドを注視していました。シンポジウムにはおよそ 80 名程度が参加しましたが、研究者以外に地元市民のみなさんも参加され、活発な質疑応答がなされました。翌日の 1 月 16 日は朝方に雪が舞う寒い日でしたが、自家用車に分乗して養老川に沿って分布する国本層～黄和田層と主な鍵層を巡検しました。本地域は古関東深海盆ジオパークのための準備をしている地域でもあるため、場所により説明用の看板やプレート、露頭までの歩道が整備されており、スムーズに見学することができました。両教授は露頭ごとに説明を受けながらいくつもの質問をされ、参加者の間で熱心なディスカッションが繰り広げられて、有意義な巡検となったと思います。末文になりましたが、シンポジウム・巡検ともに、国際シンポジウム実行委員会の皆さんには周到な準備をしていただき、大変お世話になりました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。国際模式地の採択はまだ先のようなのですが、今回の国際シンポジウムが良い結果に結びつくことを祈念しています。

◆日本第四紀学会 2010 年度学会賞受賞者講演会 (第 2 回)・シンポジウム参加報告

石村大輔 (京都大学大学院地球惑星科学専攻)

2011 年 1 月 22 日に、奈良女子大学において、日本第四紀学会 2010 年度学会賞受賞者講演会 (第 2 回)・シンポジウムが開催された。参加者約 70 名とのことで、近畿地方に限らず遠方からも多くの方々が参加されていた。

午前中は学会賞受賞者講演会が行われ、受賞者である吉川周作先生 (大阪市立大学名誉教授) と岡田篤正先生 (立命館大学) が講演を行った。吉川先生の発表では、先生の研究史と大阪層群の火山灰層序に焦点を絞って話が進められ、どのようにして現在の大阪層群の枠組みが捉えられてきたのかがわかりやすく説明された。また、現在の興味・関心にも触れられ、研究に対する熱意や意欲が私たち若手にも伝わってきた。岡田先生の発表では、先生の代表的な研究である中央構造線沿いの変動地形や古地震研究が紹介された。岡田先生は、長年にわたり中央構造線沿いの調査・研究に携わっており、その中で蓄積された種々の情報に基づき、古地震だけでなく周辺の地形・地質発達や西南日本のテクトニクスにも触れていた。研究分野を超えた広い知識・視野を持つことの重要性を感じる

ことができた。

午後からは「近畿圏における第四紀研究の新展開に向けて—大阪層群と活断層—」というタイトルのシンポジウムが行われた。大阪層群と活断層という 2 つのキーワードのもと分野の異なる 6 名の研究者の方々が発表された。詳細については、スペースの都合上割愛させていただくが、各分野の前線に立つ方々の発表は、本シンポジウムの主な対象である若手～中堅研究者にとって刺激的で興味深いものであった。最後の総合討論では、研究者間で活発な意見交換が行われ、有意義な時間を過ごすことができた。また、私個人としては、今後の新しい展開へ向けてこの近畿の地から、私たち若手が第四紀研究を盛り上げていく必要性を感じた。

最後になりましたが、講演された方々と、この講演会・シンポジウムの世話人である高田将志先生 (奈良女子大学)、三田村宗樹先生 (大阪市立大学)、竹村恵二先生 (京都大学) に厚く御礼申し上げます。

◆日本第四紀学会 2010 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2011 年 1 月 22 日 (土) 12:10～13:10

場所：奈良女子大学文学系 N 棟講義室

出席：遠藤邦彦、小野 昭、竹村恵二、百原 新、石橋克彦、海津正倫、奥村晃史、公文富士夫、里口保文、高橋啓一、長橋良隆、兵頭政幸、三浦英樹、三田村宗樹、吉川周作、吾妻 崇 (16 名)
オブザーバ：植木岳雪、高田将志、町田 洋

- ・遠藤会長から開会の挨拶があった後、出席者数 (出席評議員 16 名、委任状 18 通) が確認され、高橋啓一評議員が議長に選出された。
- ・配布資料にもとづき、2010 年度上半期の活動状況および会計状況について百原幹事長から説明があり、それぞれ承認された。
- ・日本学術会議の活動状況について奥村評議員から説明された。また INQUA 関係について、ベルン大会への準備状況と招致活動の状況について説明された。
- ・昨年 6 月に開催されたシンポジウムに関する別冊号刊行について、植木幹事から編集状況と印刷方針ならびに経費に対する説明があり、承認された。
- ・評議員が名誉会員になったときの対応について、評議員を辞職して頂き、次点者を繰り上げるという提案が承認された。
- ・日本学術会議の会員・連携会員の推薦について遠藤会長から説明があり、推薦する場合には 1 月 28 日までに百原幹事長に連絡することとした。
- ・今後の財政課題について百原幹事長から示された現状と対応方針に基づき議論を行ない、引き続き検討を続けることとした。

◆日本第四紀学会 2010 年度第 2 回幹事会議事録

日時：2010 年 11 月 7 日 (日) 13:00～17:00

場所：日本大学文理学部本館会議室 C

出席：遠藤邦彦、竹村恵二、百原 新、佐藤宏之、高田将志、三田村宗樹、長橋良隆、須貝俊彦、植木岳雪、三浦英樹、吾妻 崇、中野利洋 (事務局)

議事：

- 1) 「第四紀通信」の次号掲載事項とその準備状況を確認するとともに、紙面の体裁変更 (フォントサイズの縮小など) について検討した
- 2) 9 月に同志社大学で開催された第四紀講習会について、実施内容および参加者数等が報告された。
- 3) 2011 年 2 月に開催するシンポジウム・学会賞講演会の準備計画について検討した。
- 4) 2011 年大会の概要および準備状況について報告があり、今後の準備予定を検討した。
- 5) 学会賞・学術賞選考委員会および論文賞・奨励賞選考委員会の委員選出選挙について、被選挙候補者、選挙スケジュールなどを検討した。
- 6) 次期役員選挙の選挙管理委員候補者を選出した。
- 7) 功労賞候補者の選出について、過去の役員就任実績に関するデータに基づく選考方法とその基準について検討した。
- 8) 評議員が任期中に名誉会員となった場合の措置について検討した。
- 9) 学会運営経費の削減に関する具体案について検討した。
- 10) 次回幹事会を 2011 年 4 月 2 日 (土) に開催することとした。

◆追悼 大森昌衛先生

日本第四紀学会会員で評議員でもあった大森昌衛先生が去る1月3日に永眠されました。昨年12月に体調を崩され、検査入院中のところ、まだ病名の判断がなされないうちに帰らぬ人となりました。享年91歳でした。ここに先生のご冥福をお祈りします。

つい最近まで執筆活動を続けられていて、筆の衰えない日常生活を送られていました。まだまだお元気、と思っていた矢先のことでした。先生は1919年茨城県大子町に生まれ、戦前の高等師範、東京文理科大学を経て、戦後大学名が変わった東京教育大学に配置転換により助手となりました。以後1957年に棚倉破碎帯の研究で学位を得られ、同年助教授となり1978年筑波大学への移行に伴い辞職され、麻布獣医科大学教授となり、定年まで教育と大学運営の任務を全うされました。

この間地質学を専門とする中で、はじめ主に構造地質、層序や古生物学を中心に研究をされました。前述のように棚倉破碎帯の地質学的研究により成果を挙げられるなど、学会の中で中心的に活躍されてこられました。後に主に古生物学に重点を置いた先進的な研究で多くの後輩を輩出しました。

1950～1960年代になると地質学界は全国的に第四紀地質学の調査、研究が旺盛に行われておりました。第四紀学の分野に若手の研究者を送り出したのもこの頃の事です。第四紀の地質層序が広く認識された頃です。先生も若手研究者を伴い常総台地や関東平野一帯の調査活動を進め、一方では野尻湖の発掘調査において主導的な役割を果たし、これにより1978年には地質学会特別賞などを受賞しております。

先生は地質・古生物の研究のみならず、関連学会の運営にも特段の力を発揮されています。1967年からは8年間にわたり日本第四紀学会の評議員を務められました。1972年から1979年までは日本学術会議会員にも推挙され、第四紀研連委員や幹事を務められ第四紀学分野の発展に寄与されました。

古生物学の分野では化石の微細構造の研究を進められ、この分野に新風を持ち込まれました。この研究では海外での生体鉱物国際集会に参加するとともに日本へも重ねての招致を実現されてこられました。

親分肌の先生は進取の気性も持ち合わせておられ、多くの若手が付き添って行きました。研究ばかりでなく、学会への貢献も幾多と無く果たされてこれ他界へ旅立たれました。先生のご冥福をあらためてお祈りをします。



1995年 日本地質学会にて

(元副会長 真野勝友)

◆日本第四紀学会メーリングリスト (jaquaml) について

学会事務局では会員名簿の更新作業を行っております。

事務局に届けていただいたメールアドレスに変更があった場合は、新しいアドレスを本学会メーリングリスト (jaquaml) に登録させていただきます。なお、jaquaml への登録については、原則として第四紀通信 15 巻 2 号 (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/report/index.html>) のルールを踏襲させていただきます。

すなわち、

- ◎ 1 会員 1 アドレスのみ登録させていただきます。
- ◎ 会員名簿に登録されたアドレスを自動的に登録させていただきます。ただし、ご希望があれば登録しないことも可能です。
- ◎ 名簿に 2 つのアドレスが登録されている場合は勤務先を優先します。ただし、変更のご希望には随時対応いたします。
- ◎ アドレスの変更や削除を希望される方は、お手数ですが本会事務局まで連絡下さい。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階

株式会社春恒社 学会事業部内 日本第四紀学会

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com

電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176

◆地球化学研究協会 三宅賞 および奨励賞 募集

地球化学研究協会

2011 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者を募集します。当協会会員及び関連諸学によるご推薦の何れでもお受けします。下記の要領でご応募下さい。

1. 三宅賞
対 象 : 地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容 : 賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、毎年 1 件 (1 名)
2. 奨励賞
対 象 : 1971 年 4 月 2 日以降に生まれた方で、地球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来の発展が期待される研究者
表彰内容 : 賞状および賞金 10 万円、毎年 1 ~ 2 件 (1 ~ 2 名)
3. 応募方法 : 地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績などを記入し、主な論文 10 編程度 (三宅賞)、2 編程度 (奨励賞) を添えて、下記のあて先へ送付して下さい。応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためのみ用いられます。
4. 締切日 : 2011 年 8 月 31 日 (必着)
5. 地球化学研究協会ホームページ : <http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/>
6. 応募先 : 〒 100-8212 東京都千代田区丸の内 1-4-5
三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ
(公益信託) 地球化学研究基金 榑崎則久
7. 問合せ : 電子メールで下記アドレスへお願いします。
E-mail: eitaro1939(at)yahoo.co.jp または t-sagi(at)m3.gyao.ne.jp

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：荻谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 荻谷愛彦
〒 214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 FAX：044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176